大学新入生における自己意識の変化(1)

— 入学意思・課外活動との関連 —

○吉田 哲也・伊東 明子

(常葉大学 教育学部)

キーワード: 仮想的有能感、自己肯定感

Changes in self-consciousness among first-year university students (1)

Tetsuya YOSHIDA, Akiko ITO

(Faculty of Education, Tokoha University)

Key Words: assumed-competence, self-positivity

目 的

本研究では大学新入生の自己意識に焦点をあて、その変化を継続的に検討することを目的としている。自己意識と関連すると思われる諸要因を探索的に検討することで、大学新入生の大学生活への適応のプロセスを探り、学生支援の方策を提案する上での一助とするものである。

本研究では特に、調査対象大学への入学意思の強さと、大学のサークル活動やアルバイト、ボランティア活動といった課外活動への参加・参加意思との関連について着目する。

方 法

調査協力者 私立T大学1年生であり、教職必修科目教育心理学または選択科目心理学を受講している学生に依頼した。調査実施時に口頭と文書で説明合意を得ており、協力に合意したもののうち、欠損データのあるものを除く261名(男性126名、女性135名)を分析対象とした。平均年齢は18.15歳(SD: 0.52)だった。

調査時期 第1回調査は2014年4月23日～25日に実施した。

第2回調査は2014年7月に実施予定である。

調査方法 質問紙は個別自記入形式であり、上記授業時間内に筆者によって集合調査形式で実施した。実施時間は説明を含め15分～20分程度だった。

質問紙の構成 フェイスシート(年齢・性別・学籍番号)のほか、以下の項目で構成した。

- (1) 入学意思: 調査実施大学に入学したかった気持ちの強さを1(入学したくなかった)～10(入学したかった)の10段階で回答を求めた。
- (2) サークル・アルバイト・ボランティア活動の有無: 活動予定も含め、それぞれ2件法で回答を求めた。
- (3) 仮想的有能感(他者軽視)尺度: 速水(2006)の仮想的有能感尺度第二版11項目に対し、5件法で回答を求めた。
- (4) 自己肯定感尺度: 田中(2005)の自己肯定感尺度ver. 2 8項目に対し、4件法で回答を求めた。

結 果

第2回調査は7月実施予定のため、第1回調査における各変数間の関係について検討した。その際、仮想的有能感と自己肯定感は各々、当該尺度項目の合計得点を尺度得点とした。

(1) 課外活動参加有無と仮想的有能感・自己肯定感との関係

課外活動(サークル・アルバイト・ボランティア活動)ごとに、仮想的有能感・自己肯定感それぞれの平均値の検定を行った。その結果、大学のサークル活動への参加(意思)有無間に自己肯定感の平均値の差がみられたため、試みに性別の要因も加えて検討したところ(Table1 参照)、男性におけるサークル活動への参加(意思)有無間で自己肯定感の平均値に差がみられた($t[124]=2.85, p=0.005$: 両側検定)。

(2) 入学意思と仮想的有能感・自己肯定感との関係

入学意思の強さ・仮想的有能感・自己肯定感の相互相関を求めたところ、入学意思と仮想的有能感の間に弱い負の相関

が得られた($r=-0.26, t[259]=4.34, p<0.001$: 両側検定)。そこで試みに、サークル参加意思の有無と性別の要因を加えて層別相関を求めたところ(Table2 参照)、サークル参加(意思)のある女性の入学意思と仮想的有能感の間に弱い負の相関が得られた($t[89]=3.81, p<0.001$: 両側検定)。また、サークル参加(意思)のない女性の仮想的有能感と自己肯定感の間に中程度の負の相関が得られた($r=-0.45, t[42]=3.30, p=0.002$: 両側検定)。

Table1 サークル参加(意思)有無・性別ごとの
仮想的有能感・自己肯定感尺度得点の平均(SD)

	参加(意思)あり		参加(意思)なし	
	男性 (n=85)	女性 (n=91)	男性 (n=41)	女性 (n=44)
仮想的有能感	28.73 (6.60)	24.69 (6.04)	27.07 (7.76)	26.34 (6.36)
自己肯定感	23.14 (3.99)	22.03 (3.70)	20.88 (4.56)	21.10 (3.86)

Table2 サークル参加(意思)有無・性別ごとの
入学意思と仮想的有能感・自己肯定感尺度得点間の相関

	性別	サークル活動 への参加(意思)	仮想的有能感	自己肯定感
入学意思	男性	あり (n=85)	-0.13	-0.03
		なし (n=41)	-0.26	0.21
	女性	あり (n=91)	-0.37	0.03
		なし (n=44)	-0.08	0.10

考 察

結果(1)は、大学への適応に向けて自己を肯定的にとらえる際に、サークル活動等を通じた大学内における人間関係の形成が影響を与える可能性を示唆していると考えられる。ただ今回の研究ではこの傾向が得られたのが男性のみであり、新入生全体の学校適応における学内活動の影響についてはさらに検討する必要があるだろう。

結果(2)から、いわゆる不本意入学生の心性が示唆されよう。特にサークル活動への参加意思のある学生で入学意思と仮想的有能感の関係が示唆されたことは、入学意思の異なる学生の間で、サークル活動に参加する意味が微妙異なる可能性を示唆すると考えられる。またサークル活動への参加意思のない学生で仮想的有能感と自己肯定感の関連が示唆された結果は、サークルを通じた人間関係形成の意欲の低い学生の大学適応の在り方を示唆すると考えられる。ただ今回の研究ではこのような傾向が女性のみでありデータ数も限られることから、今後より慎重な検討が必要であろう。

引用文献

- 速水敏彦 2006 他人を見下す若者たち 講談社
田中道弘 2005 自己肯定感尺度の作成と項目の検討 人間科学論究 13, 15-27.